



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 (03) 3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



<目次>

1. 重要なお知らせ
2. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
3. 災害対策本部会議・ボランティア報告会の予定
4. 石巻・現地情報
5. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
6. 現地支援活動報告
7. 現地・事務所ボランティアの感想文



1. 重要なお知らせ

石巻現地事務所に常駐のソーシャルワーカー募集！！

ボランティアのソーシャルワーカーはこれまで通り、平日 3 名、週末 4 名を募集し派遣を継続します。そのコーディネーター的役割を含む、現地活動の中心となる方です。

「平日滞在し、週末は自宅に戻る」など体制については相談可能です。

あなたの能力を、一時期でいいので災害ソーシャルワークに投入し、東北の復興に貢献していただけませんか？！

また、お近くに適任の方がいたら、ご推薦いただければ幸いです。

*** 詳細はホームページでご覧下さい。**

<連絡先>

災害対策本部 月～金：10:00 から 17:00 土：10:00～12:00

TEL：03-3351-5038 FAX：03-5366-1058 Mail：dsstsw@jaswhs.or.jp

担当：日本医療社会福祉協会 事務局長 中川

日本医療社会福祉協会 災害対策本部 一原 取出

2. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い

① 支援活動協力員登録人数（12月2日（金）現在）

- ・ 現地支援活動協力員 : 183名（参加者延べ人数：896名）
- ・ 事務所支援活動協力員 : 93名（参加者延べ人数：482名）

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

災害対策本部（03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp） 平日・土・祝 10～17時

※メールでご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所) 災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。当会ホームページに[現地ボランティア応募フォーマット](#)が掲載されています。

12月のボランティアカレンダー

(12月2日現在)

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1[Thu]	○	○	11[Sun]	休	3	21[Wed]	1	2
2[Fri]	1	1	12[Mon]	2	1	22[Thu]	1	2
3[Sat]	2	2	13[Tue]	1	1	23[Fri]	1	1
4[Sun]	休	2	14[Wed]	2	1	24[Sat]	2	1
5[Mon]	2	1	15[Thu]	1	1	25[Sun]	休	1
6[Tue]	1	1	16[Fri]	1	1	26[Mon]	2	1
7[Wed]	2	2	17[Sat]	2	4	27[Tue]	1	1
8[Thu]	1	2	18[Sun]	休	4	28[Wed]	2	1
9[Fri]	1	2	19[Mon]	2	2	29[Thu]	休	2
10[Sat]	2	3	20[Tue]	1	2	30[Fri]	休	2
						31[Sat]	休	4

*数字は必要な人数・○は足りていることを表す。

② 寄付金の振込口座：郵便振込口座

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100-1-89515

支店名 : ○一九(ゼロイチキユウ)店(019)

口座種別 : 当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : ○一九(読み方:ゼロいちきゅう)店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

*寄付の用途は、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。

③ 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](#)までご連絡ください。

3. 災害対策本部会議・ボランティア報告会の予定

災害対策本部会議：12月1日（木）

本部のメンバーで今後の方針等を話し合います。決定したことは皆様にご報告させていただきます。

ボランティア報告会：1月開催予定

12月13日（火曜日）19時～開催予定のボランティア報告会は災害対策本部の都合により、1月に順延します。内容は9月まで現地責任者として活動された草水美代子氏と、10月・11月に活動された佐藤杏氏より、それぞれの活動を総括して報告していただきます。

これから参加を考えている方、関心のある方は、ぜひご参加下さい。

また、最近参加され活動報告をして頂ける方がいらっしゃいましたらぜひお越し下さい。

4. 石巻・現地情報



① 石巻での活動内容 ※状況によって内容変わります。

- ・ 仮設住宅の巡回及び入居者の相談支援
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働（カンファレンス等）
- ・ 経過サマリー作成業務
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携
- ・ 茶話会（医療福祉・生活相談会）の開催及び準備

② 宿泊場所 *11月23日より変更となりました。

石巻市の2LDK マンション。

* JR東日本 石巻線 陸前山下駅より徒歩約10分

③ 現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を1台貸与していただいています（保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています）。

現地ボランティアの皆様の足としてご利用いただけます。

車種：トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501 ち 3967」 銀色

④ 携帯電話

ソフトバンク様より、当会へ20台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。

現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

5. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告

現地担当者 佐藤 杏

11月26日・27日に8回目の仮設住宅における医療福祉相談会を実施しました。

1日目は5名、2日目は5名の方が茶話会に参加し、計10名の参加でした。

茶話会の話題は「震災時のこと」「被災からこれまでの生活のこと（避難所での生活など）」「被災前の生活」「行政への要望・不満」「震災へのそれぞれの思い」「ボランティアへの思い・要望」でした。

拠点センターでの茶話会から、小規模団地での茶話会での活動に移行してきました。各々の仮設住宅の色は違う中「住民同士で集まりたい」との希望は多く聞かれますが、住民の主体性を促しながら集団を作っていく作業は、各団地によってアプローチ方法が異なります。この事業は、時としてコミュニティ形成支援の入り口でもあり、SW支援としてどの範囲でどの程度まで行っていくかの方針を明確にする必要があります。

1カ所目の団地では、集会所を使つての集会在初めて、「今回のようにここで集まりたい」との要望はありましたが、鍵の管理が課題でまだ隣近所も良く分からないので話し合いの場を設けることも難しい状況であるようです。住民自治へ第一段階は、目的を明確化し、住民の方にお知らせすることも必要かと考えます。又、地域柄買い物等生活行動が不便あり、移動販売等充実してほしいとの要望も上がりました。初めて、子供が見えましたが、津波を劇で表現したり、保育所の先生が亡くなったことを淡々と話すなど違和感を感じました。小規模仮設住宅では同年齢の子供が少ないことも多く、子供の受容がどのように進み、どのようにケアしていったらよいかということも検討していきたいと思えます。

2ヶ所目団地では、集会所の鍵を住民の方が管理し始めていて、住民同士の交流も徐々にではありますが進んでいる印象です。ボランティアに対しては、単発ではなく継続的に関わってほしい、結果を伝えるだけでなく過程も伝えて欲しいなど、一時的な介入ではなく長期的な支援を望んでいます。定期的に関わる予定で考えています。



日時：平成23年11月27日（日）

10:30~15:30

場所：曾波神前団地 談話室

主催：公益財団法人 日本医療社会福祉協会 田舎部 一室 030-6250-0327

配布したチラシ&ポスター



茶話会の様子



会場の様子

6. 現地支援活動報告

網代 祐介（亀田総合病院）

期間：11月21日～11月24日

今回で4回目の石巻入りでした。新幹線の2時間の移動で、20℃も違う石巻はもうすっかり真冬の寒さです。活動初日の夜は雪。しっかりと洗礼を受けました。

現地担当者の佐藤さんと、今回のほとんどを一緒に活動した一原さんにおいてはそれぞれ私の3年目の時と1年目の時のスーパーバイザーであり、安心感と別の意味での緊張感の中での参加となりました。初日は今週末に行われる茶話会のポスティングを行い、それ以外は全て事務所移転に向けた引越し作業を行い、被災者の方に直接援助を行う機会はありませんでした。

石巻沿岸部の壊滅地域、仮設住宅を除いてはほぼ通常の日常生活が送られているようであり、震災があったことなど感じさせません。これからは被災者の生活再建と共に、何より震災での出来事を風化させないことだと強く感じました。

これまで活動に尽力されてきた協会の方々、また、全ての団体の方々に敬意を表すると共に、これかも自分の出来る事をし続けていきたいと思えます。

飯島 望（茨城西南医療センター病院）

期間：11月23日～11月26日

今回、念願の石巻での支援活動に初めて参加できました。

現地では事務所の移転作業を中心に行い、荷物の運び出しと設置、買い出し等を行ないました。また、電話回線とインターネット回線を整備し、各パソコンをLAN回線をつなぎ、すべてでインターネットが出来、データの管理を従来のUSBメモリでの保管から、1台のパソコンに保管する集中管理に変更しました。24日（木）には祐HCで開催された「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」へ参加し、調査内容に対するスクリーニング機関の検討をしました。この会議においてデータ入力フォームと専用のパソコンが手渡され運用できることとなりました。祐HCでの会議で、調査資料に基づき話し合いが行われ、直接的に医療の介入が必要がないと思われる方と心のケアの必要な方はソーシャルワーカーがインテークを取り、関わりを開始するということになりました。祐HCの武藤医師も我々の支援内容を理解しようと考えてくれており、とても心強かったです。しかし今回だけでも61件の対象者が上がり、ソーシャルワーカーがインテークを行うとされた方は31件と多く、今後当協会としてどの程度の対応が可能なのか、人員をどの程度出せるかを検討しなければこの事業への継続的な参加は困難であると感じました。

また茶話会では5名（うち子供1名）の来所がありました。この仮設住宅では集会場のカギを管理する住人が決まっておらず、コミュニティーの形成もまだ進んでいない状況でした。カギの管理等について茶話会において決定を促すような直接的に介入することは住民の全体像を把握できていないため危険であると思いました。ここで個人に鍵の管理を依頼するよう関わるより、現在の状況を確認し役所等統括する機関に報告し、関わりを促し、仮設に入居する住民が相互に協力できる関係を構築できる関わりを持つ必要があると感じました。また、コミュニティーの必要性は理解しているが、どの様なコミュニティーを望んでいるのかが見えてきませんでした。これまでの生活習慣や細かな文化等も違いがあり、コミュニティーの形成にはこれに配慮した関わりが必要です。ここでのコミュニティーは一時的になる可能性も踏まえ、その地での新たな文化を築き上げていく為に、人と人との関わりや関係性を良く理解し、そこでコミュニティーがどのような役割を担うかを確認しなければなりません。その為には、茶話会等を一定の仮設で、継続且つ定期的に開催する必要があるのではないかと感じました。

今後も不定期にはなると思いますが、継続的に活動に参加したいと考えています。

新井 敦美（群馬県医師会温泉研究所附属沢渡病院）

期間：11月26日～11月27日

今回初めて現地ボランティアに参加させて頂きました。

活動内容は、茶話会（医療福祉相談会）の開催でした。

一日目は32戸、二日目は12戸の仮設住宅で行いました。両日共参加者は5名、まだ自治会が形成されておらず、今回の茶話会で「はじめまして」と挨拶されている場面もありました。住民の皆さんと交流を持ちたかったが、なかなかきっかけがなかったそうです。参加者から「東北地方の人は引っ込み思案な人が多いんだよ」とお話がありましたが、そのような地域性を考えると、茶話会は交流を持つきっかけとなり、住民同士で仮設住宅の生活を考えていく重要な機会になるのだと感じました。そしてSWは、茶話会という場の提供だけでなく、そこで出された要望を住民主体で実現していくための調整役として活動していくことが求められているのだと思いました。

できることならまた今回行った団地に継続的に関わらせていただけたらと思いました。

小淵 匡（国立病院機構沼田病院）

期間：11月26日～11月27日

現地ボランティアは3回目でしたが、初の茶話会（医療福祉・生活相談会）参加でした。

群馬から宮城までは高速で片道5時間です。道中では天気が所々違い、時には雪が吹雪いてくるのでは？と心配をしましたが、吹雪かれることはなく無事到着することができました。

11月23日に事務所兼宿泊場所が大崎市から石巻市に引っ越ししており、活動において長かった移動時間も短縮され負担はだいぶ減ったと思います。今回のアパートは広く、飯島理事のおかげでPC関係のネットワークも構築されており快適でした。

今回茶話会を行った団地は、1日目が32戸、2日目が12戸でした。

1日目の団地では、茶話会の中で「はじめまして」と言う挨拶から始まった方がいらっしゃいました。今回茶話会始まって以来最年少である6歳の女の子が参加しました。彼女は地震や津波に対して「むかつく」と言いながら、震災時の様子を話してくれ、ぬいぐるみを使って津波の様子を表現してくれました。私の子供も6歳なので比べてしまったのですが、「彼女がただ大人びているだけなのか？我が子が子供なのか？震災の影響によるものなのか？性差なのか？」など色々考えさせられました。もし震災によるものだとしたら今後どのように影響してくるのか心配になりました。

2日目の団地では、これから地元の駐在さんの計らいで区との話し合いが行われる予定となっていました。印象に残っているのは「ボランティアに来ていただくのはありがたい。ただ被災地を見るのではなく、被災時の様子や今までの経過を多くの人に聞いて、多くの人に伝えてほしい。東北の男は引っ込み思案だけど、話す機会があれば話す。」と仰っていた男性がいたことです。自分は3回目の参加ですが、「今まで現地ボランティアに参加して、聞いたこと、見たことを誰かに伝えられたのか？うまく伝えていく方法を考えていかなければいけないな…」と思いました。

7. 現地・事務所ボランティア感想文

現地・事務所ボランティアの思いや業務のことなど・・・一読ください。

～現地から～

11月21日（月）

今日はポストイングをしながら凍えました。
帰り道で見た温度計が「2°C」となっていて寒いはずだと思っていたら、古川で初雪が降りました。

11月22日（火）

明日はいよいよ石巻へ引越しです。
信和物産にて新事務所兼宿舍の鍵受け取り、必要物品買い出しをしてきました。

11月23日（水）

本日無事引越が完了しました。
男性がいるからという理由で本日に設定しましたが、大正解でした。理事の飯島さんと亀田の網代さんのパワーと頭脳で、私にはできないことわからないことがテキパキと見事に進められていきました。
午後は雨になってしまい、買い出しが終わらなかったのが残念でしたが、残りは明日行いたいと思います。

11月24日（木）

昨日終わらなかった買い出しや片づけを行いました。
まだ細々とした物の買い出しや片づけは残っていますが、とりあえず今夜から宿泊開始です。

11月25日（金）

新しいアパートは、広いゆえに暖まるまでは少し時間がかかりますが、エアコン+ホットカーペットで快適です。関東で毎晩寒い寒いと言いながら過ごしていましたが、こちらの寒さはその比ではありません。

11月26日（土）

今日は昨日より少し暖かく感じました。
石巻事務所のネットワーク環境を飯島さんが整えてくださいました。帰宅時間を遅らせてしまいましたが、おかげさまで事務所機能としては格段に良くなりました。本当にありがとうございました。

11月27日（日）

本日午前中は4人で茶話会に臨み、午後からは、2名はそのまま会場に残り、もう2名は10月に開催し「自治会形成」を希望されていた団地で、行政委員さんを交えて、2度目の茶話会を行いました。
「相談会」ではなかなか集客が少なく、「茶話会」と銘打ってきましたが、団地によってはお茶のみだけであれば・・・という考えが強くなってきているようです。

～事務所から～

11月21日（月）

清水（初台リハビリテーション病院）

一原さんと連絡が繋がらなくなってしまい、頼まれ事をきちんと終えられず、申し訳なく思います。
23日の市川さんへお願いしようと思います。

11月23日（水）

末廣（等潤病院）

本日は午後からの参加でした。午前中の市川さん、出勤前の申し送りありがとうございました。
ホームページのアップの件では、一原さんと1回は電話が繋がったものの、アップできる情報は準備できましたが、最後までやり遂げられず無念でした。お電話が繋がったときは天の助けのようでした。
最後にトラブルが発生！！左右田さんすいません…。

11月24日（木）

左右田（初台リハビリテーション病院）

末廣さん…昨日は本当にお疲れ様でした。現地では古川から石巻への引越しが無事終わったそうです。皆様お疲れ様でした。風邪などをひかないよう気をつけてください。

11月25日（金）

清水（初台リハビリテーション病院）

先日やり残したことを終えられたので、一安心しました。皆様お疲れ様です。

11月26日（土）

東（初台リハビリテーション病院）

初めての土曜日。協会の方への電話もないので、すごく静かな環境で、1人黙々と事務作業をしました。仕事に集中できて、たまにはこんな日があってもいいなと思いました。途中、渋川総合病院の伊藤さんが差し入れを持って来てくださいました！！「顔を出すだけで…」と恐縮されていましたが、そんなことありません！！とても心が暖まりました。